

国土利用計画第2次伊豆の国市計画(案)に係る意見公募(パブリックコメント)の結果

番号	ページ	項目	内容	意見への対応(案)
1	3	2 土地利用の基本方針	<p>広域的な視点が削除されている。これは、総合計画にも言えることですが、これからの行政改革は単一自治体だけでできるものでなく広域連携が重要である。なぜそのようなものになるのか説明を求める。第一次国土利用計画には、基本方針に「自立と広域における役割を高めるための土地利用を進めます」うたわれていた。</p>	<p>広域連携の推進については、合併の翌年度に策定された第1次計画の時点から、「美しい伊豆創造センターの設立」や「駿豆地区12市町広域窓口サービス」、伊豆市との連携による「新ごみ処理施設の整備」など広域連携の体制づくりが進み、一定の成果を得て普及段階に入ったと認識しております。特に伊豆全体の広域的な連携については、美しい伊豆創造センターを核とした協力体制を推進していきます。</p>
2	18	土地利用構想図	<p>国が進めようとしている「コンパクトな市街地形成」の考え方から、市内にある伊豆箱根鉄道の5つの駅の中で1つ(伊豆長岡駅)を都市機能拠点と位置付けるべきである。</p> <p>原木駅と韮山駅は生活拠点とし田京駅と大仁駅は産業拠点とすべきではないか。</p> <p>また、江間工業団地、長岡工業団地2つ含めて、産業ゾーンという位置づけでいいのではないか。</p>	<p>市内にある5つの鉄道駅は、ともに交通結節点として重要な役割を担う拠点となっています。</p> <p>都市機能拠点は、都市再生特別措置法において居住者共同福祉や利便性向上を図るために必要な施設がある地域として規定されていますが、ご指摘いただいた田京駅については、高齢化が進む中で必要性が高まる施設として伊豆保健医療センターや市民サービスの拠点となる市役所大仁支所があることから、伊豆長岡駅とともに都市機能拠点と位置付けております。</p> <p>大仁駅は、原木駅や韮山駅と並び、交通結節点として重要な役割を担いつつ、駅の利便性を生かした地域生活の拠点となる駅と位置付けております。</p> <p>また、産業ゾーンについては、市内各所に工業用地がある中で、スポーツワールド跡地の工業用地としての開発をにらみ、「雇用の創出を図る工場など産業活力の創出及び地域振興や経済活性化に繋がる有効活用」として特に「産業・業務立地拠点」と位置付けております。</p>